



深山たかし

発行元：深山たかし後援会
上尾市大字上1774-7
048(776)0575
fukayama-sov@icom.home.ne.jp
ホームページは検索サイト
「深山たかし」で閲覧できます。

議会レポート

「地域手当」見直しで 毎年三億円の財源確保

景気が後退すると財源を捻出する為に費用の徹底した見直しが必要になります。

私が、国の基準を上回る支出を調べたところ公務員給与の中に「地域手当」と言う手当が存在することを見つけました。

地域手当とは、『地域の民間賃金水準を公務員給与に適切に反映するよう、主に民間賃金の高い地域に勤務する職員の給与水準の調整を図るため、支給される手当。支給地域及び支給率は、国の支給率に準じて定めること』とされています。上尾市の地域手当の計算は、(基本給+扶養手当+管理職手当)×六%
国が上尾市に示した基準

三%にした場合、毎年約二億六千万円の市民サービスに使える財源が生まれます。

さらに、国の基準を上回る自治体は、財政に余裕がある団体とされ「特別交付税」という補助金をカットされてしまいます。

文献を調べた結果上尾市は、〇六年度・三千八百万円、〇七年度・五千五百万円、〇八年度・五千五百万円、三年間の合計で一億三千九百万円もの補助金を頂くことが出来ませんでした。

日本中で景気の減速が叫ばれ、雇用不安が伝えられる状況下、常識的に考えても、役所内で「自浄作用」が働いて、人事院勧告に連動する形で職員給与も見直

されるはずなのですが、何かが障害になって今まで実現されませんでした。

身近で「景気が悪く、夏のボーナスが全く支給されなかった」とか「解雇されて、再就職出来ない」との話しを聞くと、即刻「国の示す基準の支給率三%」にすべきであると訴えました。

最初、難色を示していた当局も「世間の目は、役所が考えるほど甘くない」と言及したことで、回答の内容も変化し、「地域手当の見直しやむなし」の方向へと大きく舵を切りはじめました。

市民の皆さんが役所の職員へ求めていることは、社会情勢に敏感に反応し、市民の痛みを肌で感じ、市民に寄り添う姿勢(思いやりの心)だと思っています。

今回の質問にあたり、私自身非常に迷い、悩みました。職員にも家族がいま少し、

地域手当を減額した場合、期末勤勉手当にも影響があります。(役所の全職員が対象)

私は、民間企業や商工会の勤務経験もあり、雇用される者の気持ちも理解出来ます。「そこまで踏み込んで良いのか」と自問自答、ジレンマを抱えながら、質問を行いました。

葛藤の中で「今回は、軽く要望程度に留め、次回以降、徐々に核心に迫っていくのか」とも考えましたが、「景気が底を突いている今だから出来る質問」と自らを奮い立たせたのが偽りのない気持ちでした。

毎年地域手当の減額分と国からの補助金の合計約三億一千万円の財源があれば、私が必死で補助金の要望し実現するのに何年もかかっていた「集会所新築工事」も、二十カ所以上が一年で出来てしまう額です。

私はこの貴重な財源を市民生活向上のために有効に使って欲しいと切望しています。

上尾・伊奈斎場 つつじ苑へのシャ トルバス運行

「近所の方々より「斎場つつじ苑は交通手段が乏しく通夜、告別式へ参列する場合、知人の車に同乗させて貰わないと行く事が出来ない。駅からのシャトルバスが欲しい」との要望を伺いました。

調べたところ、斎場つつじ苑は、上尾駅から四・九キロメートルの距離にあり、近くのバス停から徒歩十五分かかるとの事でした。
「高齢の方も斎場つつじ苑へ行きやすい環境整備が必要と考えて質問を致しました。

【答弁の要約】

現状では、地域基盤整備等の課題も多く、早急な対応は難しいようですが、今後、認識をもって取り組んで頂けるようです。

冠婚葬祭の簡素化

一九四五年ころから各地で新生活運動が始まりました。この運動は、「結婚式は公共施設で行う」「葬式の香典は金額を少なくして香典返しは辞退する」いわゆる戦後の混乱期に出費を抑え、生活の無駄を極力なくす運動だったようです。
私は昨今の世界的な不況下だからこそ、新生活運動の推進が望まれると考えております。

行政が率先して推進することでの考え方も広く定着するのではないかと思われました。

親しい友人や知人が亡くなった時、式に参列し、送ってあげたい気持ちは誰にでもあります。現状ですと葬儀が増える、家計の負担も非常に大きくなってしまっています。簡素化は時代の流れでもあります。今後、実現に向け研究していただきたいものです。

上尾の魅力とは

七月「公報あげお」で市民意識調査の結果が掲載されました。内容を見ると「住み心地」について五七・四%の方が「住みやすい等」を始めとして、様々な感想や意見・要望が出されておりました。

私はこの資料は市政運営していく上で極めて貴重な「情報の宝庫」だと感じました。この結果を受け、市として何を感じ、どのようなプロセスを踏んで市政運営に活かしていくのかを尋ねました。

過去にも同様の質問をしていますが、上尾市の特色を活かした施策が打ち出されていないのが現状です。
島村市長も二年目を過ぎましたので、自身のカラーを前面に出されても良い時期だと強く感じています。

ネット公売について

インターネット公売は、他の自治体でも取り入れられて成果も出ています。積極的な活用を期待します。

上平公民館の駐車場に側溝を整備して買いました。

雨が降ると体育室前に水たまりが出来てしまつて、北側の駐車場から公民館へ入るのに通行できなくなっているのを見て、雨水対策をお願いしました。
側溝が出来たことで雨の日も歩きやすくなりました。



議員の質問力

議員によって質問の仕方も違いますが、質問項目が多くなると焦点もボケてしまいがちです。

基本的に当局は、議員が質問した内容意外は答えてくれません。質問力不足から、充分満足のいかない回答も過去に何度か経験しました。このような体験から私は、各テーマごとに、質問内容を整理し、何が一番聞きたいかを明確にして原稿を作ります。

職員に私の考えを説明し、疑問点があれば、あらゆる角度から質問します。
本会議場は、議員のパフォーマンスの場ではありません。公の場で市民の代表としての意見を行政に伝え、実行して貰う約束の場所です。

一般質問は、議員に与えられた権利であり、チャンスですので、私は、皆さんの意見をしっかりと市政に届けたいと考えております。